

日本山岳会蔵資料紹介 No.5

[資産番号] 00263
 [資料名] 山岳スケッチ
 [部門名] 絵画
 [寄贈者] 三田静子
 [受入日] 1992年



① アルバータ東面 (小アルバータ中腹より)



② カンチェンジュンガ山群

第11代 (1968年4月～1973年4月) 会長を務めた三田幸夫 (1900～1991年) より寄贈された資料は、山岳スケッチと書簡関係の2つに分類される。今号では数点のスケッチから2点を、次号で書簡を紹介する。

これらスケッチの貴重なところは、当時、初登頂合戦という時代背景のなかで最前線にいた三田が、日本の登山家仲間にエネルギーに1分でも早く情報を伝えようとしていた姿勢が見てとれるところにある。慶大山岳部時代は日本アルプス登山史に名を刻み、1925年にはカナディアン・ロッキーのアルバータ峰初登頂に成功し、世界の山岳会を賑わし賞賛された。インド勤務中は、自分の目で集めたヒマラヤの情報を惜しげもなく発信し続けた。それが情報として活かされ、日本のヒマラヤ登山の門戸を開き、日本山岳界の発展に尽くした点にあらう。

①は、アルバータ東面のスケッチで、「July/27/25 2pm, 2276m」とある。初登頂を成し遂げた後に描いたもので、右上に、「A 頂上、B 70米突のギャップ、C ビヴァークせる地点、D 始めて取りし山稜、E 此处より落石頻繁、登攀困難となる」などのメモ。さらに、左下に「岩、クロアール、氷のステップ」、「帰還 ステップヲ切りニ」の文字や、点線で記されたルートも見ることができる。

②は、カンチェンジュンガ山群を望んだもので、「Rinchenoungのバンガローより (6000ft) 29/12/28、望遠鏡写真を複写」とある。各ピークは、C : Narsing (19130ft)、E : Jubonu (19530ft)、F : Pandim (22010ft)。下部分にフィートをメートルに換算したり、距離を計算した跡がある。さらに、「a、b 谷ニ登レル、c、D ridgeニ登レル、E peakモ可能 (南ヨリ)、F 南側peakニ登ル氷、ridge困難在ナリ、G cニ登ルridgeノ縦走は困難在ナリ、H、Gノ谷ハ可能性アリ GヨリEニ登ルモ可能性アリ」などのメモ書きも見てとれる (数字や文字などは、スケッチのメモ記述通りに記載)。

なお、日本山岳会ホームページ→日本山岳会の活動案内→委員会→資料映像委員会→所蔵資料紹介へとアクセスすると、「会報ページそのもの」を拡大して見ることができます。活用ください。また、公開資料に関する情報・ご意見・ご教示など、次までお寄せください ④jacshiryo102@jac.or.jp (資料映像委員会)

日本山岳会会報 山 820号

2013年 (平成25年) 9月20日発行
 発行所 公益社団法人日本山岳会
 〒102-0081
 東京都千代田区四番町5-4
 サンビューハイイツ四番町
 TEL 東京 (03) 3261-4433
 FAX 東京 (03) 3261-4441
 発行者 日本山岳会会長 森 武昭
 編集人 柏 澄子
 Eメール:jac-kaiho@jac.or.jp
 印刷 株式会社 双陽社

たちに、その先にある自然にも目を向けてもらいたい、という気持ちで名づけた。庭の少し先に飛び出せば、そこには、山岳地帯があり大きな夢が広がっている、という思いもある。今年の舞台は上高地と徳本峠。自然豊かで、すばらしい景観。日本山岳会にとっても、また日本の登山を語る上においても、歴史的に重要なポイントだ。かつてこの峠を、松本藩の林業従事者や漢方医、そして文学者たちなど皆が、そして馬や牛が越えたことに思いをはせた。

●また江本さんの記事にある、「ただちに命を守る」行動について、この力こそ、山に登る者が一般に向けて発信できるメッセージではないだろうか。こういったあたりには、日本山岳会が未来へ向かう扉の鍵を探っている。(柏 澄子)